



誰もが生き生きと暮らせる地域作りを目指して

小諸市民生児童委員協議会

会長 望月 健一



・委員全員でがんばっています

小諸市の民生児童委員は定数二一〇名です。委員が毎月提出する「活動記録」により、昨年一年間の活動日数は委員一人当たり平均で一四〇日、高齢者宅等への訪問回数も年二二三回に上ります。小諸市民児協は八地区の単位民児協からなり、単位民児協はそれぞれ毎月一回、地区会を開催し委員相互の連絡を密にするとともに、各種研修会等にも積極的に参加し地域福祉の向上のために頑張っています。

・地域住民の皆さんとの協働が必要な時代です

少子高齢化、核家族化が進行する中で「誰もが生き生きと暮らせる地域」をつくるには委員だけの力では到底不可能です。地域はそこに暮らす「人」によって成り立っています。子供からお年寄りまで、地域で暮らす全ての人が主役です。みんなが地域の中で大切にされ、いきいきと元気に暮らしていける小諸市を目指し、関係機関や地域住民の皆さんと協働して活動して参ります。

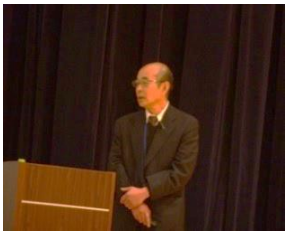
民生児童委員の全体研修会

小諸市民児協主催の民生児童委員全体研修会が十月二十九日(木)に市役所新庁舎ステラホールにて行われました。講師は、小諸市地域包括支援センターの高齢者支援専門員 藤沢雅美氏です。

演題は「成年後見人制度の知識」で副題として、「利用者の権利を守るため」の内容でした。高齢者の支援活動と人権の擁護の難しさについて具体例を示し講演されました。

また、地域の中で自分らしく生きていくためには、本人の意思を代弁する支援者がどうしても必要となる。いわゆる権利を主張できない方の権利をどう守ることができるのか。その対応の中で成年後見人制度活用の意義。具体的に申し立ては誰がやるのか。色々なケースを紹介しながら、判り易く話されました。

私達は、この研修で得た知識を、今後の委員活動の中でいかし、地域福祉のために頑張ろうと思えます。



講師 藤沢雅美 氏



新庁舎ステラホール



講演を真剣に聞く各委員

東日本大震災被災地の復興視察

全体視察研修を十一月十日(火)と十一日(水)に行い、九十名が参加しました。視察地は、仙台湾の豊富な海産物がとれる港町として栄えた宮城県名取市の閑上(ゆりあげ)地区です。先の震災で予想を超えた大津波により住民の割に当たる約七五十名の方が犠牲となりました。

「閑上震災を伝える会」のかたりべさんから被災の状況をお聞きすると、まさかここまで津波は来ないとの思いこみによる避難の遅れ。避難する車の大渋滞。公民館に避難した方々が指定避難所の中学校へ移動したため途中で津波に襲われてしまった。さらに、防災警報が放送されなかったことが被害を甚大にしたようです。

そして地区を一望できる日和山の鎮魂神社から復興工事の状況を見ました。現状を見る限り、復興への道のりは長いと感じました。また、どこに町を再建するかを巡り行政と住民の間には大きな隔たりがあるようです。

災害発生時には、住民避難や災害時要援護者支援を、行政と地域住民とで支え合い連携することが重要であると、実感した研修でした。

※なお、日和山の石碑には昭和八年三月三日に発生した昭和三陸地震の津波被害の記録と、「地震があったら津波に用心」の教訓が記されています。その教訓はほとんど忘れられていたようです。



かたりべから説明を聞く各委員



日和山からの復興工事の一望



手をつなぎ合う地域へ

三岡地区民生児童委員協議会

会長 小林 眞隆

三岡地区民生児童委員協議会は、市区・耳取区・森山区の三つの区からなり、民生児童委員八名・主任児童委員一名、総勢九名で活動を行っています。

この地区の高齢者の方々は、何らかの形で農作業にたずさわっていらつしやる方が多いので皆さん元気に活動されています。このことが健康寿命を延ばす一つの要因だと考えています。

私たち民生委員は、そんな皆さんに元気をもらいながら、他地区と同様に、独居高齢者の方々の見守り活動、介護予防教室、健康達人区らぶ、給食会、世代間交流会等の活動をしています。こうした活動を通して、地域の皆さんが交流する一助となればと思っています。

地区民協研修活動の一環として、地区の敬老会に参加しています。本年度も昨年度に引き続き、飛び入り出演しました。「貯筋」をテーマとした寸劇を披露し、その後、水戸黄門テーマソング「ああ人生に涙あり」の歌に合わせ、会場の皆さんと一緒に運動を行いました。好評だったと自画自賛しています。

『一人の手』を地区民協の愛唱歌とし、心の糧にしています。

「一人の小さな手

何もできないけどそれでもみんなの手と手を合わせれば何かができる」という想いを胸に日々活動を続け、地域の皆様に気軽にお声をかけていただけ的存在になりたいと考えています。



敬老会の寸劇の様子

地域のみなさんに寄り添って

東部地区民生児童委員協議会

会長 土屋多恵子

東部地区民生児童委員協議会は十二地区の民生児童委員十七名と主任児童委員一名、計十八人で構成されています。

毎月一度の東部地区例会は市の厚生課や高齢福祉課、社会福祉協議会の方々の協力を得ながら開催されます。各地区で直面している課題や問題、対処方法については各委員の活発な意見や先輩方からのアドバイスも大いに参考になり、非常に有意義な時間です。また、会議終了後は委員同士の情報交換や励まし合い、楽しいおしゃべりは委員活動のエネルギー源となっています。

「地域のお子さんからお年寄りまで、誰もが安心して自分らしく生活できる」このことが私たちの唯一の願いであり、その気持ちに寄り添って活動していくことが私達の役目だと考えています。

お年寄りに会えば「お元気ですか？」小中学生に会えば「こんにちわ！」ベビーカーのママには「可愛いですね！」と話しかけたいと思います。気持ちを含めて、優しい笑顔で！私たちが地域住民の身近な相談相手となり、支援を必要とする住民と行政や専門機関をつなぐパイプ役となれば幸いです。



地区会終了後、懐古園を散策ガイドは東部地区委員

◎主任児童委員連絡会からお知らせ

小諸市民生児童委員協議会の主任児童委員連絡会では、子育ての不安や心配ごと、いじめや虐待など、不登校などの悩みについて、お気軽に相談できる「なんでも相談」を開催しています。詳しくは、三ページに掲載のお知らせをご覧ください。

◎祝表彰者

次の方は、民生児童委員として長期間にわたって地域で委員活動され、栄えある表彰を受けられました。おめでとうございます。

長野県知事表彰(社会福祉功労者)

小林みつ子 委員(東南部地区)

表彰式は、六月四日(木)に長野市のホテル国際21で行われました。

◎発刊に当たって

この度、市民の皆様方に民生児童委員活動の一端やお知らせなどを掲載した広報誌「小諸市民生児童委員協議会だより」を小諸市のホームページに掲載する運びとなりました。今回は、市内二地区の民生児童委員協議会の活動を紹介しました。発行は年三回小諸市のホームページに掲載の予定です。問い合わせ等は小諸市民生児童委員協議会の事務局へお願いいたします。

事務局

小諸市民生部厚生課保護社会係まで

電話〇二六七(二二)一七〇〇

内線二二三